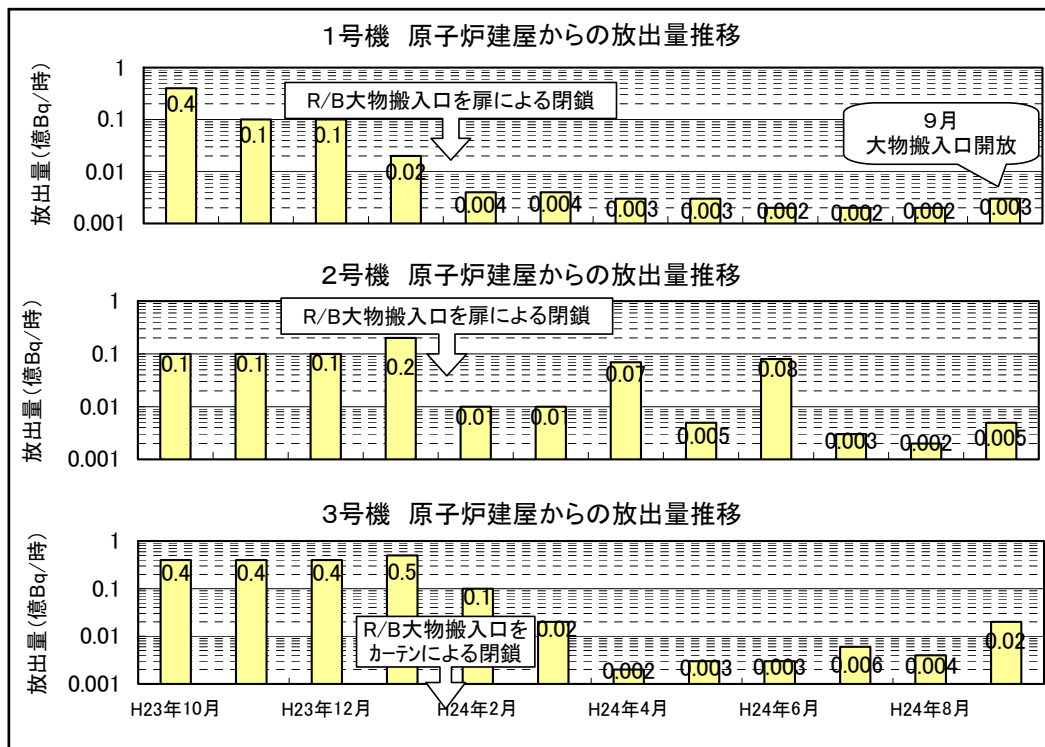


原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果

- 1～3号機原子炉建屋からの現時点の放出量（セシウム）を、原子炉建屋上部等の空気中放射性物質濃度（ダスト濃度）を基に評価。（各号機の採取地点は別図参照）
- 測定は放射性物質が舞い上がるような作業が行われていない状況であり、1号機は大物搬入口を開放、2・3号機は閉鎖した状態で実施。
- このため、1～3号機の放出量の合計は、先月公表時の約0.1億ベクレル/時から変化なしと評価。これによる敷地境界における被ばく線量は0.03mSv/年^{*1}と評価。
- 号機毎の推移については下記のグラフの通り。



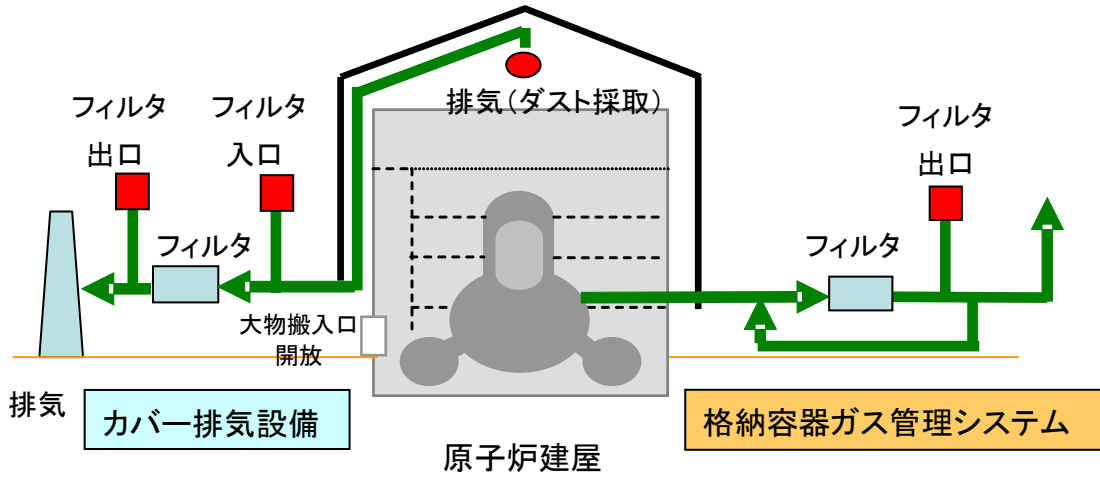
* 放出量についてはCs134とCs137の合計値である

(備考)

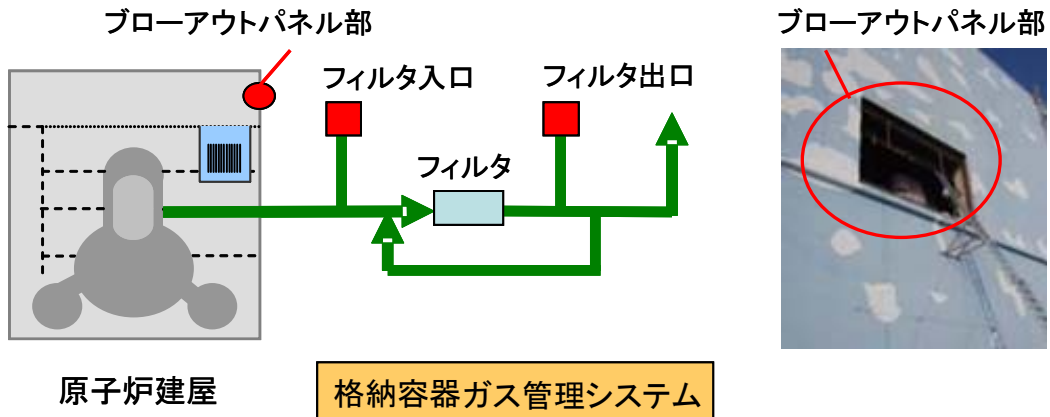
- ・ 1～3号機の放出量の合計値は0.028億ベクレル/時であり、原子炉の状態が安定していることから、前月と同様に0.1億ベクレル/時と評価している。
- ・ 1号機大物搬入口は、サプレッションチェンバ内への窒素ガス封入作業のため9/4～9/13の期間大物搬入口を開放している。大物搬入口の開放に伴い建屋からの放出量が増えるため、大物搬入口を1月間連続で開放していたものとして評価している。
- ・ 希ガスについては、格納容器ガス管理設備における分析結果から放出量を評価しているが、放出されるガンマ線実効エネルギーがセシウムに比べて小さく、被ばく経路も放射性雲の通過による外部被ばくのみとなるため、これによる被ばく線量は、セシウムによる線量に比べて極めて小さいと評価している。

(※1) 施設運営計画における評価方法により評価 (H24年8月27日報告別紙資料参照)

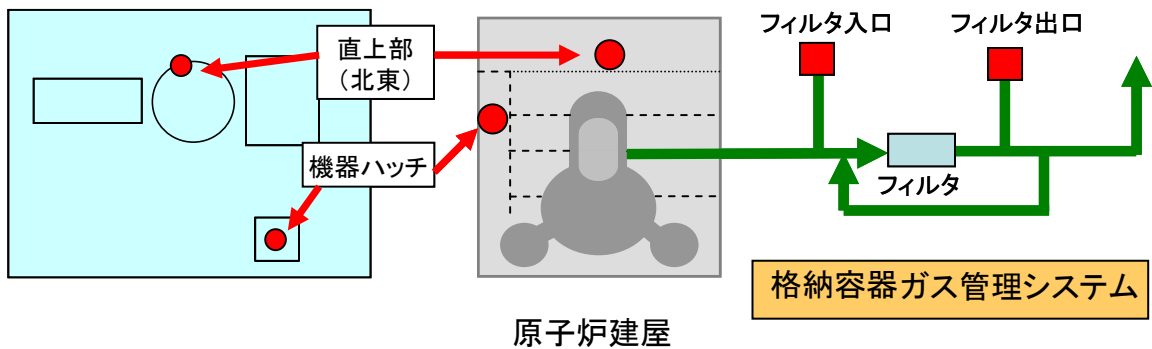
1号機のサンプリング設備概要



2号機サンプリング設備概要とサンプリング状況



3号機サンプリング概要



敷地境界における線量評価方法の統一について

新たに大気中へ放出される放射性物質による敷地境界における線量評価には、

- (1) 昨年7月より実施している毎月の冷温停止状態達成の確認のための評価
(冷温停止確認の評価)
- (2) 本年4月より四半期毎に実施している年間 1mSv 未達達成の確認のための評価
(年間 1mSv 確認の評価)

の二つがある。

これらの評価では、用いる計算式、係数が異なっていたことから、9月の評価から統一することとした。

1. 評価方法の相違点

原子炉建屋から大気中へ放出された放射性物質による線量評価は、図-1に示す三つの被ばく経路について、放出された放射性物質の量(放出量)と福島第一における年間の気象観測結果に基づき、放出量(Bq/時)から敷地境界における被ばく線量(mSv/年)を算出する計算式により計算される。

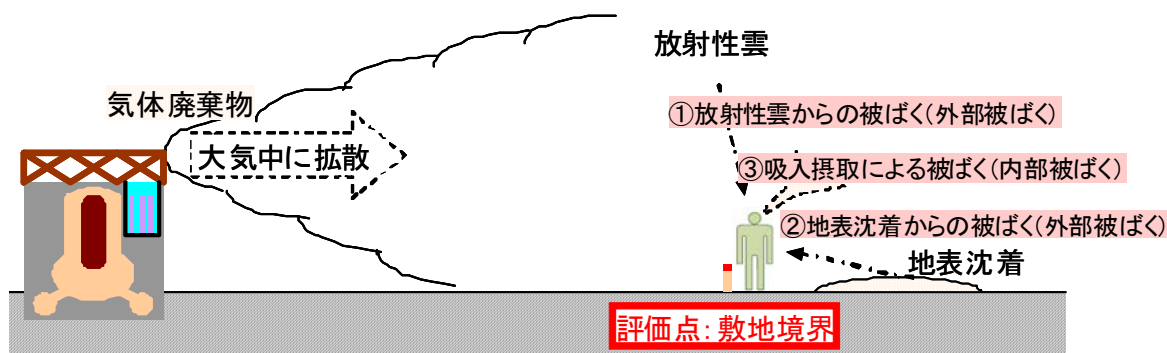


図-1 被ばく経路(概念図)

冷温停止確認の評価、年間 1mSv 確認の評価のいずれにおいても、原子力安全委員会の指針に基づく評価の基本的な考え方、被ばく経路については同じであるが、具体的な算出において表-1に示す通り計算式や係数に相違がある。

例えば、地表沈着の評価において、冷温停止確認の評価では、短時間で評価を行うために、指針の計算式を簡略化し各項に相当する係数を文献から集めて掛け合わせて算出している。一方、年間 1mSv 確認の評価では、指針の計算式に必要な係数を与えて算出している。両者において評価の基本的な考え方は同じである。

2. 今後の評価

今後の評価においては、施設運営計画における線量評価との整合も考慮し、冷温停止確認のための評価について、施設運営計画における評価で用いている年間 1mSv 確認の評価の方法によることとし、9月の評価より適用する。

以上

表－1 評価方法の具体的な相違点

	冷温停止確認の評価の方法	年間 1mSv 確認の評価の方法
放射性雲 (外部被ばく)	・計算式は同じ	
	・ガンマ線のエネルギーは平均値を使用 (Cs-134, Cs-137の組成比が約 1:1 のため平均値を用い、核種毎の計算を省略)	・ガンマ線のエネルギーは核種毎のデータを使用
地表沈着 (外部被ばく)	・指針の計算式を簡略化し、各項に相当する係数を掛け合わせて算出	・指針の計算式の通りに算出
	・沈着量の算出に降雨も考慮された係数を使用 ・文献の換算係数により放射エネルギーから線量を算出	・沈着量について、雨の降る期間と降らない期間に分けて、それぞれに係数を与えて算出 ・計算式により放射エネルギーから線量を算出
吸入摂取 (内部被ばく)	・計算式は同じ	
	・指針の換算係数により放射エネルギーから線量を算出	・施設運営計画における評価の数値により放射エネルギーから線量を算出